

高齢者のアセスメント3（フェイスシート等）

東海社会福祉科学研究所

大北 秀 雄

個別援助におけるインテーク（相談機関が来談者に対して最初に行う面接のことです。受理面接とも表現されます。）において取られる利用者の情報を記入する記録用紙のことで、他職種と情報を共有できる内容(氏名・性別・住所・生年月日・家族構成・健康状態等)が記入されているものです。

インテークでは、来談者が来談した意図のくみ取り、問題点の把握、他機関への紹介などを行います

※ 一般のフェイスシートは、アンケートなどの調査資料において、性別や年齢、職業など個人情報に関わる質問項目のことで、アンケートなどを分析、集計するにあたっての分析軸となるものです。これらの調査項目は、調査票の冒頭部に置かれることが多いことからこのように呼ばれています。

「インテーク・家庭等での面接」

(1) 生活暦の記載に当たっては、概ね次の年代を中心に聞き取り、まとめていくことが、利用者の状況把握になると思います。

0歳 ～ 20歳 ～ 40歳 ～ 50歳 ～ 60歳 ～ 70歳 ～

(2) 現在の生活状況を明確に捉えていくことが、適確なサービス提供につながっていきます。

①1日の日課・行動 1 / 24 時間

②1週間の内容 1 / 7 日

食事であれば 1 / 21 回数

③1月の内容 1 / 31 日

④問題点を感じる

(3) 聞き取り時のメモ等を作成していくことで、今後の状況確認において役立つと思います。

- ・対象者名
- ・立会者名
- ・場所

- ・日
- ・時間
- ・天候
- ・気温、湿度（感じる数字——冷暖房の利用）
- ・調査者
- ・特記事項など

（４）高齢者で特に介護保険の利用者に対しての接遇時に注意する点は、会話時間、理解度、次への繋がり等になると思います。

①高齢者との会話時間

「会話ですから双方通行が原則」

- ・何分が普通に理解してもらえるのか

それは 3分 5分 10分 なのか

これ以上の会話は望まないこと

- ・必要であればメモを渡す等の注意が必要です。

（このことに注意しないと、後で困ることが多いようです。）

②文書にするときは、

- ・いつも一般的な表現にし、専門用語は使用しないこと

（できれば、義務教育終了者が容易に理解できる文書にすること）

- ・活字の大きさは、誰が対象なのかに注意すること